

農業を基盤とした地域づくり

安芸高田市吉田町多治比にある「農事組合法人 於手保農場夢21」。ここでは、こだわり米の生産・販売、大麦・小麦の生産・加工・販売などを行っています。

「お米は、コシヒカリを6.4ha、あきるまんを4.7ha、あきさかりを5ha作っています。そのうち、コシヒカリとあきるまんは、有機肥料を使用し、農業や化学肥料の使用量を慣行に比べ半分以上にしたこだわり米です。堆肥を散布し農薬を減らすため栽培に手間がかかりますが、おいしい作物を作ることができます」

と語るのは於手保農場夢21の代表理事を務める西川美富さん。より多くの消費者に於手保産の米や麦茶を買ってもらえるよう、こだわりの持ちつて農業をしています。

「於手保地域では、農業の効率化を目的として平成元年に営農組合を発足したのですが、田畑が有害鳥獣被害に遭い、思うように農業をすることができていませんでした。平成13年に国の農業支援制度の『中山間地域直接支払交付金』を活用し、集落全体を囲う防護柵を設置したことで有害鳥獣被害がおさまり、農業をしやすい環境になりました。これならば農業ができるという



於手保農場夢21 代表理事 西川美富さん

雑草を生えにくくする、という取り組みを「中山間地域等直接支払交付金」を利用して3年前から行っています。吹き付けを行う畦畔に8カ月間にわたって3回除草剤を撒く、という作業が必要になりましたが、芝生の種の吹き付けを行った結果、年4回地域で行っていた草刈りが1回に減ったそうです。「於手保でも高齢化や過疎化が進み、草刈りが大きな負担となっています。これが軽減できれば、農業をやるという人が増えるかもしれません」と西川さんは言います。

年退職をした人が、ここで農業をしよう、という気持ちになれるような地域にしたいです。ここには、稲作、麦の栽培のほかにも、他の農作物の栽培など、年間を通してやるがあります。また、周囲にある山に行けば、ふきやたら芽、たけのこ、わらびなどが自然に生えています。街に住むより、この地域に住みたい、と思う地域になれるといいな、と思っています」

農業を活性化させることで、土地の荒廃を防ぎ、防護柵の設置や草刈りの負担を軽減することにより、農業をしやすい環境を整えている於手保農場夢21は、地域の未来を明るくしています。



7

6



10



9



8



2



3



4



5



11

- 1 麦を炒る焙煎機。麦茶用の麦は205度で、はったい粉用の麦は153度で炒る。
- 2,3 麦を炒った後、熱を冷まし、袋に入れる。
- 4,5 その後ふるいにかけて不要なものを除き、手作業で袋に詰める。昔ながらの製法で麦茶を作っている。
- 6,7 於手保農場夢21で販売している麦茶とはったい粉。
- 8 芝生が生えた畦。雑草が生えにくくなったため、見た目もきれい。
- 9 於手保農場夢21の組合員のみなさんで大豆を植え付けている様子。9月頃に一部を枝豆として収穫し、10月に黒豆として収穫する。その後は大麦を栽培する予定。
- 10 於手保農場夢21の作業場。
- 11 於手保地域一面に広がる田んぼ。この田んぼのほとんどでこだわり米が作られている。